

Try 1

古文 第1章 土佐日記

氏名	
年 月 日	得点
問(16問中)	

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。その年のしはすの二十日あまり一日の日の戌の時、門出す。その由、いささかにもに書きつく。

ある人、県の四年五年はてて、例のことどもみなしをへて、解由などとりて、住む館より出でて、船にのるべきところへわたる。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろ、よくくらべつる人々なむ、わかれがたく思ひて、日しきりに、とかくしつ、ののしるつちに夜ふけぬ。

問1 〽線 a 「しはす」を漢字に直して書きなさい。

問2 〽線 b 「戌の時」は、現代の何時ごろのことか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 午前八時ごろ。
- イ 午後八時ごろ。
- ウ 午前六時ごろ。
- エ 午後六時ごろ。

問3 文章中から次の、の意味の動詞を、そのままの形で抜き出しなさい。

移動する 大騒ぎする

問4 線 「男もすなる日記といふものを、女もしてみんとするなり。」について、次の問いに答えなさい。

(1) この一文を現代語訳しなさい。

(2) この文章は『土佐日記』の冒頭部分で、『土佐日記』の作者は紀貫之である。貫之が文章の書き手を「女」に仮託した理由を、当時の状況を考慮しながら簡潔に書きなさい。

問5 線 「その由」とあるが、この「由」の具体的な内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日記を書くに至りたいきさつ。
- イ 京への船旅の様子。
- ウ 任国を出発するときの様子。
- エ 「ある人」の様子。

問6 線 「年ごろ、よくくらべつる人々なむ、わかれがたく思ひて」を現代語訳しなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

廿三日。八木のやすのりといふ人あり。この人、国にかならずしも言ひ使ふものにもあらざなり。これぞ、たははしきや

うにて、馬のはなむけしたる。守からにやあらむ、かみ 国人の心のつねとして、「いまは。」とて見えざるを、心あるものは恥ぢずになむ来ける。これは、ものによりて褒むるにしもあらず。

*言ひ使ふ…召し使つ。

たはしき…立派な。

国人…土着の人。

問1 線 「あらざるなり」について、次の問いに答えなさい。

(1) この部分の文法的な説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「あらずなり」の「ず」が「ざ」に変化した形。
- イ 「あらざるなり」の「る」が表記されていない形。
- ウ 「あざるなり」が撥音便化した「あざさんなり」の「ん」が表記されていない形。
- エ 「あらずなり」で一種の慣用句。

(2) これと同じ文法的な現象を示している五字の部分を、文章中から抜き出さなさい。

問2 線 「守からにやあらむ」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「守から」の現代語訳として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国司の行為。
- イ 国司の人柄。
- ウ 国司の意向。
- エ 国司の命令。

(2) この部分はどこに係っているか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 馬のはなむけしたる
- イ 国人の心のつねとして
- ウ 「いまは。」とて見えざるを
- エ 心あるものは恥ぢずになむ来ける

問3 線 「いまは。」とあるが、この部分の省略を補った現代語

訳として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もつ離任する国司には用はない。

イ 今となつてはもう遅すぎる。

ウ 今から出かけても、きつと間に合わないだろう。

エ もはや別れの宴は果ててしまった。

問4 線 「恥ぢずに」とあるが、「八木のやすのり」は、どのよ

うなことに對して気がねしないというのが。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国司の思い- イ 土地のしきたり

ウ 世間体- エ 世の中の慣習

問5 線 「これは、ものによりて褒むるにしもあらず。」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「もの」の具体的な内容を表している一語を、文章中から抜き出さなさい。

(2) 作者は「八木のやすのり」の何を褒めるといふのか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 努力
- イ 無骨さ

ウ 真心- エ 機敏さ